

【日高北部森林管理署】 木造建築・我が署紹介！



◎日高北部森林管理署庁舎は、平成19年3月に完成し、今年で築15年になりました。

構造・規模は、木造平屋建て、延べ床面積約430㎡です。

構造材は、カラマツ大断面構造用集成材約39㎡、内・外装材約23㎡、合計約62㎡の木材が使用されています。

庁舎設計時のコンセプトは、北海道から産出される木材を使用し、地域に親しまれる庁舎になるよう周囲の環境にあった色彩・外観とし、木の良さを多くの方に認識を深めて頂ける建物にする。というものでした。木造建築物の構造は多々ありますが、当署においては、木質二方向ラーメン構造(柱と梁で長方形を構成)を採用しています。

その構造の主な特徴は次の4点です。

- 一. 木造建築物として2000年の耐震基準を確保。
- 二. エンジニアリングウッド(板や木片を接着し、必要な強度が得られるよう加工された木質材料で、性能にバラツキが少なく強度も保証)の採用により、塩害などに強く火災時の強度を保持しています。
- 三. 筋交いや耐力壁が不要なため、間口・奥行きともに自由度の高い、開放感あふれる空間創造が可能となっています。
- 四. 接合部の金具の露出をなくし、木の美しさや温もりを最大限に活かすことが可能になっています。

また、外装は正面に大きなカラマツ集成材、羽目板にもカラマツを使用しており、周囲の環境にあった外観となっています。

事務室の床はカラマツフローリングを使用し不要な壁がなく空間の広がりが増え、窓も多く配置されていて、とても

明るい事務室になっています。



開放感あふれる事務室

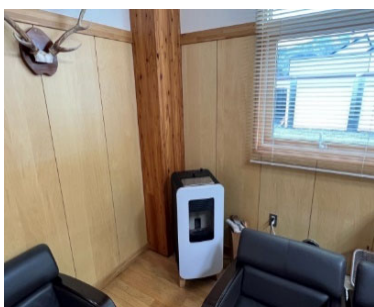
会議室は、様々な会議に対応できるよう中間に可動間仕切り壁を設け、ナラフフローリングやシナ台板を使用しています。



会議室

◎日高北部森林管理署は、北海道中央南西部に位置し、日高町、平取町の国有林約10万haを管轄しています。管内の国有林には、幌尻岳、パンケヌーシ岳、チロ口岳、ルベシベ岳、北戸薦別岳などの山々があり、希少な自然環境が残されており、「日高山脈襟裳国定公園」に指定されています。

また、史跡名勝天然記念物「沙流川源流原始林」や「日高山脈森林生態系保護地域」等は野生生物の重要な生息環境となっています。このような、森林とのふれあいや生物多様性の保全、原生的な天然林の保全など、森林の公益的機能の維持増進を図るため森林の適切な管理・経営に努めています。



環境に優しく暖かいペレットストーブ